

第八十六回帝國議會 戰時民事特別法中改正法律案外二件委員會會議錄(速記)第二回

付託議案

戰時民事特別法中改正法律案(政府提出、貴族院送付)(第二三號)
會社等臨時措置法中改正法律案(政府提出、貴族院送付)(第二四號)
司法官試補及辯護士試補タル資格ノ特別ニ關スル法律案(政府提出、貴族院送付)(第二五號)

昭和二十年一月三十日(火曜日)午前十時二十八分開議

- 出席委員 左ノ如シ
委員長 金井 正夫君
理事伊藤 清君 理事南雲 正朔君
理事信正 義雄君

- 江口 繁君 濱瀬 一郎君
菊地養之輔君 佐久間 渡君
田村 稔君 谷原 公君
桃原 茂太君 山田 竹治君
山本 芳治君

- 出席政府委員 左ノ如シ
司法務次官 中井 一夫君
司法參與官 伯爵德川 宗敬君
司法省民事局長 齋藤 直一君
司法省刑事局長 船津 宏君
司法省刑政局長 正木 亮君
司法省調査官 佐藤 藤佐君
司法書記官 堀内信之助君
司法書記官 辻 朔郎君

本日ノ會議ニ上リタル議案左ノ如シ
戰時民事特別法中改正法律案(政府提出、貴族院送付)
會社等臨時措置法中改正法律案(政府提出、貴族院送付)
司法官試補及辯護士試補タル資格ノ

特別ニ關スル法律案(政府提出、貴族院送付)
○金井委員長 只今カラ戰時民事特別法中改正法律案外二件ノ委員會ヲ開キマス、先ヅ政府當局ノ御説明ヲ願ヒマス、中井政府委員

○中川政府委員 本委員會ニ御付託ニナリマシタ三案ニ付キマシテ司法大臣病氣缺席ノ爲メ、私ヨリ提案ノ理由ヲ御説明申上ゲマス、先ヅ戰時民事特別法中改正法律案ニ付キマシテ申述ベマス、司法ノ部門ニ於キマシテモ大東亞戰爭進展ノ段階ニ應ジ、特別法ノ制定並ニ之ガ改正ト、數次ニ互ル特別ノ措置ヲ講ジテ參ツタノデアリマスガ、最近ノ諸情勢ニ鑑ミマシテ、民事司法ノ上ニ若干ノ簡素化ヲ圖ルノ必要ヲ認メ、玆ニ戰時民事特別法ニ若干ノ改正ヲ加ヘントスルモノデアリマス、其ノ要點ハ大體次ノ如クデアリマス

第一ハ民事訴訟ニ於テ、口頭辯論又ハ準備手續ノ期日ニ、當事者雙方ガ出頭セズ、又ハ辯論若シハ陳述ヲ爲サズシテ、退廷スルコト、即チ所謂休止ヲ爲スコトニ及ビマシタトキハ、訴ノ取下アリタルモノト看做サントスル點デアリマス、第八條ノ二ガ之ニ當リマス現行法ニ於キマシテハ、休止ノ回数ニ何等ノ制限ナク、唯休止後三月内ニ期日指定ノ申立ヲ爲サナイ場合ニ於テノミ、訴ノ取下アリタルモノト看做サレノデアリマスガ、實情ニ於キマシテハ、休止ト期日指定ノ申立ノ交互反覆ヲ爲シ、訴訟ノ實體ハ進行運々タル事件ガ尠カラズ存在シテ居リマス、

斯クノ如キハ、裁判所、當事者共ニ此ノ決ハ、却テ遷延スルト云フ極メテ好マシカラザル結果ト相成リマスノデ、此ノ弊ヲ矯メント致サントスルノデアリマス、併シナガラ、他面空襲其ノ他ノ災害等、當事者ノ責ニ歸スルコトノ出來ナイ事由ニ因ツテ出頭スルコトノ出來ナカッタ者ガ、右ノ效果ヲ受ケマスコトハ、頗ル難デアリマスカラ、斯カ

ル當事者ハ、當該事由ノ止ミタル後一週間内ニ期日指定ノ申立ヲ爲セバ、訴ノ取下ト看做サル、コトナク、手續ヲ續行シ得ルモノト爲サムトスルノデアリマス

第二ハ除權判決ノ前提タル公示催告ニ關スルモノデアリマシテ、第十一條ノ二ニ當リマス、喪失シタ手形株券其ノ他法律ニ於テ無効ト爲シ得ベキコトヲ定メタル證書ノ無効宣言ノ爲ニスル公示催告ノ期間ハ、民事訴訟法第七百八十三條ノ特別規定ニ依リ、六箇月ト定メラレテ居ルノデアリマスガ、空襲等ニ基因スル災害ニ因リ、是等ノ證書ノ滅失ノ危險ガ増大シテ來マシタ今日、此ノ期間ハ長キニ失スルト考ヘラレマスノデ、右特別規定ノ適用ヲ排除シ、同法第七百六十七條ノ一般規定ニ依リ、二箇月トセントスルノデアリマス

第三ハ調停委員ノ指定ニ關スルモノノデ、第十七條ノ二及第十九條ノ改正規定デアリマス、調停委員會ヲ開ク場合ニ於キマシテ、調停主任ハ毎年豫メ地方裁判所長ノ選任シタル者又ハ當事者ノ合意ニ依リ選定セラレタル者ノ中カラ、事件毎ニ二人以上ノ調停委員ヲ指定スルノデアリマスガ、期日ニ出頭ヲ命ゼラレタ調停委員ガ不出頭ノ爲メ、其ノ期日ニ委員會ヲ開クコトノ出來ヌ場合ニ於テ、偶、調停ヲ行フ現場ニ來合セタ者トカ、附近ノ者ノ中ニハ、右ニ述ベタ指定セラル、條件ニハ副ハヌガ、知識經驗ガアツテ、調停委員タルニ適當ト認メラル、者モアリマセウカラ、調停主任ハ即座ニ斯カル者ヲ調停委員ニ指定シ、期日ヲ無爲ニ過スコトナク調停手續ヲ進ムルコトガ、戰時下紛争ノ速カナル解決ニ資スル所以ト考フルノデアリマス、仍テ戰時民事特別調停ニ付キ、第十七條ノ二ノ規定ヲ設ケ、之ヲ他ノ總テノ調停ニモ適用センガ爲メ、第十九條ノ准用規定ニ追加ヲ爲サントスルノデアリマス

第四ハ登記ニ關スル特別デアリマシテ、第二十條乃至第二十二條ガ之ニ當リマス、先ヅ努力資材ノ節約、印刷能力ノ關係等ヨリシテ、裁判所ガ然スベキ登記事項ノ公告ハ、戰時中ハ之ヲ爲サザルモノトシ、登記及ビ公告ヲ對抗要件トスル商業登記ニ付テハ、登記ノ時ニ登記及ビ公告アリタルモノト看做スコトト致シ、次ニ謄抄本ノ交付ノ煩雜ヲ制約センガ爲メ、登記ニ付テモ、登記事項ノ變更ナキコト、及ビ或ル事項ノ登記ナキコトノ證明ノ制度ヲ擴充シ、登記簿ノ謄抄本ノ再認證ノ制度ヲ設ケ、尙ホ登記ノ手續中、登記申請書ノ添附書類、登記ノ共同申請人ノ範圍、及ビ登記ノ移記、轉寫ニ付キ簡便

ナル方法ヲ認メ、其ノ細目ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ムルコトト致サントスルノデアリマス

次ニ會社等臨時措置法中改正法律案ニ付テ御説明申上ゲマス
最近我が本土ニ對スル敵ノ空襲モ、日ヲ逐ウテ熾烈トナツテ參リマシタノデ、將來大規模ナ空襲等ニ因リ災害ノアツタ場合等ニ、會社其ノ他ノ法人ガ災害ニ因リ所要ノ法律上ノ手續ヲ履踐スルコトガ出來ヌ爲メ、機能ヲ停止スルガ如キコトガアリマシテハ、産業上經濟上憂慮ニ堪ヘヌ次第デアリマスカラ、是等災害ノ下ニ於テモ、會社其ノ他ノ法人ヲシテ、其ノ業務ヲ機動的ニ運營シ、責務ヲ果スニ支障ナカラシムルノ途ヲ拓カシガ爲メ、會社等臨時措置法中ニ若干ノ特別規定ヲ追加セントスルモノデアリマス

本法案ハ先ヅ之ヲ會社ニ付キ規定シ、次ニ之ヲ他ノ法人ニ准用スルコトト致シマシタ、會社ニ關スル特別ハ、大體次ノ如クデアリマス
第一ハ戰時災害其ノ他ノ災害ノ影響ヲ受ケタ會社ノ爲メ、株主總會ヲ召集ニ付キ、二ツノ特別ヲ設ケントスルモノデアリマス、其ノ一ハ第三條ノ二ノ規定スル所デアリマシテ、此ノ種災害ニ因リ株主名簿ヲ喪失シ、記名株主ノ全部又ハ一部ノ氏名住所ヲ確知スルコトノ出來ナクナツタ株式會社ニアリマシテハ、其ノ株主ニ對スル通知ヲ爲スコトガ出來ナイ爲メ、株主總會召集ノ途ヲ封ゼラレルコトガ考ヘラレルノデアリマスカラ、當該株主ニ對スル召集

ナル方法ヲ認メ、其ノ細目ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ムルコトト致サントスルノデアリマス

ナル方法ヲ認メ、其ノ細目ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ムルコトト致サントスルノデアリマス

通知ヲ省略シテ、總會ヲ召集スルコトガ出來ルコトト致サントスルノデアリマス、其ノ方法トシテハ、此ノ種會社ニハ遲滞ナク株主名簿喪失等ノ事項ヲ公告サセテ、株主ニ所要事項ノ申出ヲ促スト共ニ、總會召集ノ場合、株主ノ氏名住所ノ不明ノ株式ガ、資本總額ノ二十分ノ一ヲ超ユルトキハ、總會ヲ開クベキ旨、及ビ會議ノ目的タル事項ヲ公告スルコトヲ要スルモノトシ、斯クシテ召集サレタ總會ニ於テ、特別決議ヲ爲ス場合ノ定足數ノ計算ニ付テハ、氏名住所不明ノ株主ハ、總株主ノ員數ニ算入サレナイコトトシタノデアリマス、其ノ二ハ第三條ノ三ニ規定スル株主總會召集地ニ付テノ特別デアリマス、現在總會ハ、必ず本店所在地、又ハ之ニ隣接スル地、若シ定款他ノ地ヲ指定シテアル場合ニハ、其ノ地ニ之ヲ召集スルコトヲ要スルノデアリマスガ、前述ノ災害ニ因リ是等ノ地ニ總會ヲ召集スルコトガ著シク困難トナツタ場合ニハ、便宜他ノ適當ナ地ニ之ヲ召集スル途ヲ開カウトスルノデアリマス

第二ハ株主總會ノ省略ニ關スルモノデ、第四條ノ二、第四條ノ三及ビ第九條ガ之ニ當リマス、本來株主總會ハ株式會社最良ノ議決機關トシテ、株式會社制度ノ核心ヲ成スモノデアリマスカ、濫リニ是ガ省略等ヲ考フベキデナク、災害下ニ於テモ飽クマデ之ヲ開催シ得ルヤウニスル爲メ、前述ノ特別ヲ開イタノデアリマスガ、災害ノ程度ガ更ニ深刻ナ場合ニハ、斯カル特別ニモ拘ラズ、尙且ツ總會ヲ召集ガ著シク困難ニ陥ル場合モ起リ得ルノデアリマス、斯様ナ場合ニ總會ヲ決議ヲ要スル事項ヲ執行セントスルニ當リ、會社ノ理事者ガ空シク手ヲ拱イテ總會ヲ召集シ得ル

時期ノ至ルノヲ待ツノ外ナシト云フノデハ、會社業務ノ運営ハ著シク阻碍サレルコトトナリ、獨リ戦力増強ノ爲メ憂慮スベキコトデアアルノミナラズ、株主ヤ會社債權者トシテモ、理事者ガ非常災害下ニ於テ、之ニ即應スル對策ヲ講ズルニ支障ガアルヤウデハ、頗ル不安トナラザルヲ得ナイノデアリマス、仍テ本法案ハ此ノ場合ノ特別トシテ、會社ノ取締役又ハ清算人ハ總會ヲ決議スベキ事項ヲ總會ニ依ラズシテ自ラ決スルコトヲ得ルモノト致シマシタガ、是ハ飽クマデ總會ヲ召集スルコトヲ得ルニ至ルコトヲ臨機ノ措置デアリマスカラ、會社ノ目的ノ變更、合併、解散等、會社存立ノ根本ニ觸レル重要事項ヤ、其ノ他性質上、理事者ヲシテ決定セシムルコトノ不適當ナ事項等ニ付テハ、一應之ヲ理事者ノ權限ノ外ニ置キ、唯法令又ハ法令ニ基ク命令ニ依ル場合ニ限リ理事者ガ之ヲ決スルコトヲ得ルコトト致シマシタ、又本特別ニ依リ理事者ガ總會決議事項ヲ自ラ決シ得ル場合ニ於キマシテハ、慎重ヲ期スル爲メ理事者ハ豫メ監督官廳又ハ裁判所ノ認可ヲ受ケル必要アルモノトシ、其ノ認可ノ申請ニ際シテハ、監査役ヲシテ所要ノ調査ヲ遂ゲタ上、意見ヲ認可所管廳ニ報告セシメ、理事者ハ本特別ニ依リ當該事項ヲ決定シタコトヲ次回ノ株主總會ニ報告スルコトヲ要スルモノトシ

タノデアリマス、尙ホ此ノ特別ニ依リ理事者ノ權限ハ非常ニ擴張サレマスノデ、萬一理事者又ハ監査役ニ於テ此ノ制度ヲ悪用センカ、其ノ害恐レベキモノガアリマスカラ、是等ノ者ガ所管廳ニ對シテ認可ノ申請又ハ意見ノ報告ヲナスニ當リ、不實ノ申述ヲナシ、又ハ事實ヲ隱蔽シタ場合ニハ、相當ノ刑事制裁ヲ

以テ臨ムコトト致シタノデアリマス、第三ハ債券ナキ社債ノ募集ヲ認メントスルモノデアリマシテ、第五條ノ二及ビ附則第二項以下ガ之ニ當リマス、最近ノ紙ノ事情並ニ印刷能力ノ狀況デハ、社債券ノ製造ガ非常ニ困難デ、社債ヲ募集シテ其ノ拂込ヲ徵シナガラ、債券ヲ交付セズニ其ノ儘トナツテ居ル例ガアリマスケレドモ、斯様ナコトハ專業資金ノ吸收ノ上カラモ、社債流通ノ上カラモ、好マシカラヌ現象デアリマスカラ、茲ニ特別ヲ設ケ、社債ノ募集ノ場合ニハ、其ノ社債ニ付キ債券ヲ發行シナイコトヲ定メ得ルモノトシ、斯カル社債ニ付テハ、發行會社、又ハ社債募集ノ委託ヲ受ケタ會社カラ社債ノ登錄ヲ請求スルコトヲ要スルモノトシ、尙ホ此ノ種ノ社債ニ付テハ、社債權者ハ登錄ノ抹消ヲ請求出來ナイコトニセントスルモノデアリマス

最後ニ第四ハ、第六條第二項ニ規定スル株主名簿其ノ他ノ書類ノ備置キ場所ニ關スル特別デアリマス、最近ノ空襲等ノ狀況ニ鑑ミ、株主名簿、社債原簿及ビ信託證書等、原本ヲ會社ノ本店ニ備置クコトヲ要スル重要書類等ヲ、他ノ安全ナ場所ニ疎開サセテ不測ノ損害ニ備ヘシムルコトトシタノデアリマ

ス

以上ノ四點ハ何レモ必要ニ應ジ營國、金庫、組合等、會社ニ非ザル法人ニ準用致シマシタ、其ノ場合ハ勅令ヲ以テ之ヲ規定致シマス、第八條ノ改正規定ハ其ノコトヲ規定致シタモノデアリマス

終リニ司法官試補及辯護士試補タルノ資格ノ特別ニ關スル法律案ニ付テ御說明ヲ申上ゲマス、高等試驗ガ昨年度ニ引續キ本年度モ停止セラレルコトト

相成リマシタ所、昨年度ニ於キマシテハ、地方裁判所及ビ區裁判所ノ本職ノ判檢事並ニ其ノ補充源タル豫備判檢事ニ相當數ノ過剩員ガアリマシタ爲メ、新規ニ司法官試補ヲ採用スル必要ヲ認メナカツタノデアリマス、然ルニ昨年十二月末ニ於キマシテハ、判事ノ過剩員ハ僅カニ三名ニ減少シ、檢事ノ現在員ハ定員ニ一致スル狀態ニナツタノデアリマス、而シテ本年以降將來生ズベキ判檢事ノ補充源トシテハ、現在、豫備判檢事合計約百四十名並ニ近ク任官ノ見込ナル司法官試補約五十五名ヲ有シテ居ルノデアリマスガ、是等ノ豫備判檢事、及ビ司法官試補モ昭和二十二

年三月末頃マデハ大體補充シ終ル見込デアリマスカラ、其ノ後ノ補充ノ補充ニ充テル爲メ、司法官試補ノ實務修習期間ヲ考慮ニ入レ、本年ノ適當ナル時期ニ新規ノ司法官試補ヲ採用シテ置カネバナリマセヌノデ、本年度ノ高等試驗ノ停止ニ伴ヒ、司法官試補ノ資格ニ付キ特別ヲ設ケル必要ヲ生ズル譯デアリマス、尙ホ辯護士試補ニ付キマシテモ、辯護士ヲ志望スル者ノ進路ヲ引續キ鎖シテ置クコトハ妥當ナル處置デアリマセヌノデ、併セテ其ノ資格ニ關スル特別ヲ設ケルコトト致シタ次第デアリマス

以上三案ニ付キマシテ一應御説明ヲ申上ゲタ次第デゴザイマスガ、何卒慎重御審議ノ上御可決アラランコトヲ切望致ス次第デアリマス

○齋藤(直)政府委員 只今政務次官カラ三法律案ニ付キマシテ、詳細御説明ガアツタノデゴザイマスガ、其ノ中戰時民事特別法中改正法律案及ビ會社等臨時措置法中改正法律案ノ中ニハ、勅令ニ讓ツテアリマス、事項モアリマス

シ、立案ノ際解釋上斯ウ云フ點ガ問題ニナルデアラウト豫想セラレマシタ點モ多少ゴザイマスノデ、重複スル嫌ヒハゴザイマスガ、御審議ノ御便宜ノ點ヲモ考ヘマシテ、多少細カイ點ニナリマスガ、若干說明ヲ補足サセテ戴キタイト存ジマス

先ツ戰時民事特別法中改正法律案デゴザイマスガ、第八條ノ二ノ關係ニ於キマシテ、所謂休止「二回ニ及ビタル時ハ」トアリマスノハ、口頭辯論及ビ準備手續雙方ニ互ツテ各一回ツツ休止ガアリマス、是ハ通算シテ本條「二回ニ及ビタルトキ」ト云フ趣旨デゴザイマス、尙ホ新法施行前ト新法施行後ニ此ノ休止ガ跨ガリマスカラ、二回ニ於キマシテモ、ソレハ附則ノ第二項ニ特ニ經過規定ヲ設ケマシテ、此ノ二回ノ回数ノ計算ハ本法施行後ニ付テノミ之ヲ扱フル趣旨デゴザイマス、尙ホ、休止ニ付テノ現行法ノ規定デアリマスガ、民事訴訟法二百三十八條ハ本改正規定ニ拘ラズ併存スル趣旨デゴザイマスカラ、若シ本法ノ施行後モ休止後裁判所ガ職權テ期日ヲ指定スルコトモノ申立ヲモ致サナイ場合ニハ、只今ノ二百三十八條ニ依リマシテ訴ヘノ取下ト看做サレルコトハ、今マデト變リガナイノデアリマス、尙ホ第一項但書ニ依リマシテ、不可抗力ナリトシテ當時者カラ期日指定ノ申立ガアリマシタ場合ニ、裁判所ガ不可抗力ニアラズトシテ、期日指定ノ申立ノ理由ノナイコトヲ認メマシタ場合ニハ、解釋上問題ニナルト思ヒマスガ、現在ノ大審院ノ判例ノ趣旨ニ依リマシレバ、是ハ訴訟ノ終了シテ居ルコトヲ宣言スルモノデアリマスカラ、判決ニ依ルベキモノデア

ルト考ヘマス

次ニ第十七條ノ二ニ付テデゴザイマ  
スガ、是ハ條文ニモ特ニ遲滞ヲ避クル  
爲特ニ必要アリト認ムル場合ト書イ  
テアリマスヤウニ、餘リ濫リニ使フヤ  
ウナ趣旨デハナイノデアリマシテ、已  
ムヲ得ナイ、例ヘバ出張先ニ於テ、呼  
出シテ居ル調停員ガ出テ來ナイ爲ニ、  
空シク其ノ日ニ調停ガ出來ズ引上ゲナ  
ケレバナラヌヤウナ場合ニ適用ヲ見ル  
趣旨デアリマシテ、且ツ調停主任ガ指  
定スルニ當リマシテモ、其ノ基準ハ地  
方裁判所長ガ選任スルデアラウト思フ  
ヤウナ適任者デナケレバナラヌ趣旨デ  
アリマス

次ニ第二十條ニ付テデアリマスガ、  
只今裁判所ガ登記事項ノ公告ヲ致シテ  
居リマスノハ、商業登記ト、各種法人登  
記ノ系統ノ登記ニ付テダケデアリマス  
ガ、現在ノ職時民事特別法第三條ニ依  
リマシテ、官報ニノミ之ヲ致シテ居リ  
マス、ソレヲ戰時中今度ハ全部止メル  
コトニ相成ル譯デアリマスガ、其ノ中  
商業登記ノ關係ニ於キマシテハ、商法  
第十二條ニ依リマシテ登記及ビ公告ヲ  
以テ對抗要件ト致シテ居リマスノデ、  
公告ガナクナリマシタ結果、ソレヲ登  
記ノ時ニ登記及ビ公告アツタモノト看  
做ス必要カラ第二十條第二項ヲ設ケタ  
次第デアリマスガ、是ハ本法施行ノ際  
ニハ、既ニ登記ハ濟ンデ居ルガ、マダ  
公告シテナイト云フモノニ付キマシテ  
ハ、附則第三項ニ依リマシテ、本法施  
行ノ時ヲ以テ登記ノ時ニ看做スト云フ  
コトニ致シタノデアリマス、尙ホ外ノ  
法令ノ例ヘテ申上ゲマス、民法施行法二  
十六條或ハ商法施行法十七條ノ如ク、裁  
判所ノナスベキ登記事項ノ公告ト同一  
ノ方法デ公告ヲナスコトヲ要スルト云

フヤウナ規定ノアリマス場合ニハ、裁  
判所ガ今日全部ノ公告ヲシナイコトニ  
ハナリマスガ、併シソレハ依然官報ヲ  
以テ公告スベキモノト解釋スルノガ正  
當ト存ジマス

次ニ會社等臨時措置法中改正法律案  
ニ付キマシテ申上ゲタイト存ジマス  
ガ、第三條ノ二ニ於キマシテ戰爭ニ起  
因スル災害ノ外勅令ヲ以テ定ムル災  
害ト致シテゴザイマスガ、ソレハ地  
震、津波、火災、洪水、暴風雨等ヲ豫想シ  
テ居リマスノデ、ソシテ具體的ニドノ  
地ニ起ツタ地震ニ適用スルカト云フヤ  
ウナ場合ハ、更ニ抽象的ニ勅令デ書イ  
テ居ル外ニ司法大臣ノ告示ノ如キモノ  
ガ要ル趣旨デアリマス、只今ノ第三條  
ノ二第一項ノ終リニ「勅令ノ定ムル所  
ニ依リ公告スルコトヲ要ス」トナツテ  
居リマスガ、只今考ヘテ居リマス勅令  
事項ノ内容ハ、會社ガ災害ニ依ツテ株  
主名簿ヲ喪失シテ氏名、住所ノ分ラヌ株  
式ガアルト云フコトト、ソレカラ株主  
ノ方カラ斯クノノ事柄ヲ申出テ貰ヒ  
タイト云フヤウナコトデアリマス、ソレ  
ハ株主名簿ノ再製ニ必要ナ事柄デ、株主  
ノ方ニ分ツテ居リマス株主ノ氏名、住所、  
株式ノ種類、數、株券ノ番號、拂込ミシ  
タ株金額、拂込ノ年月日ノ如キモノデアリ  
マス、第四條ノ二ノ關係ニ於キマシテ  
ハ、第一項ニ「會社ノ業務若ハ清算ヲ  
監督スル官廳又ハ裁判所ノ認可」トア  
リマスガ、是ハ單ニ主管官廳ト云フヤ  
ウナ程度デナク、當該會社ノ業務ソレ自  
體ニ付キマシテ監督權ヲ有スルコトガ  
法令ニ規定セラレテ居ル官廳ノ意味デ  
アリマシテ、ソレヲ具體的ニ明確ニス  
ルノハ、勅令ニ讓ツテアル次第デアリマ  
ス、此ノ認可ハ取締役又ハ清算人ノ決  
スル事柄ノ有效要件デアリマシテ、取

締役又ハ清算人ガ決シマスノハ、其ノ  
會社デ決メテ居リマスカ或ハ商法デ決  
メテ居リマス業務執行法ト同一ノ方法  
ニ依リ趣旨デアリマス、其ノ事柄ハ法  
律ノ規定デ、總會決議事項トシテアリ  
マス事柄ノ外ニ、定款ニ依リマシテ總會  
ノ決議事項トシテ居ル事柄ヲモ含ム趣  
旨デゴザイマス、サウシテ取締役又ハ  
清算人ガ決定致シマスコトハ、總會ノ  
決議自體ニ代ルノデアリマセヌノデ、  
之ニ對シテハ別段決議取消シノ訴ヘト  
云フ如キモノハ許サヌ趣旨デアリマス  
第四條ノ三デ勅令ニ讓ツテ居リマス  
點ハ、監査役ガ報告スルノハ、書面ニ  
依ラシムルト云フヤウナコトヲ豫想シ  
テ居リマス、第五條ノ二ニ付キマシテ  
ハ、分割シテ數回ニ社債ヲ發行致シマ  
ス場合ニ、第一回、第二回ニ付テハ債  
券ヲ發行シタガ、其ノ以後本條ニ依ツ  
テ債券ヲ發行シナイト云フコトモ差支  
ヘナイ趣旨デアリマス、本條デ勅令ニ  
讓ツテ居リマスコトハ、例ヘバ債券ヲ  
發行セザル旨ヲ社債申込書又ハ信託證  
書等ニ記載サセルト云フヤウナ事柄デ  
アリマス

第六條關係ニ付キマシテハ、本條  
ニ依リ疎開サセルコトノ出來ル書類ノ  
中、勅令ニ讓ツテ居リマスモノハ、例  
ヘバ相互會社ノ社員名簿ノ如キモノノ  
デアリマス、サウシテ疎開サセマシタ  
場所ニ於キマシテ閱覽サセル、其ノ他  
ノ事務ヲ執ツテモ差支ヘナイ、斯ウ云  
フ趣旨デゴザイマス、以上デ敷衍シタ  
説明ヲ終リマス

デハソレハ後ニ御願ヒ致シマセウ、如  
何デゴザイマセウカ、審査ニ付テハ之  
ヲ總括的ニ色々ノコトヲ先ツ政府カラ  
承リ、其ノ次ニ法文ニ付テ逐條的ニ説  
明ヲ承ルコトニ致シマシタラドウデア  
リマセウカ

○金井委員長 ソレデハ其ノ通りニ致  
シマス、今日ハ谷原サンカラ御質問ノ  
要求ガアリマスカラ、先ツ谷原サンニ  
御願ヒ致シマス

○谷原委員 私ハ總括的ニ御尋ネスル  
ノデアリマスガ、併シ其ノ重點ヲ戰時  
民事特別法中改正法律案ニ置イテ、  
御聽キテ致シタイト思フノデアリマ  
ス、御提案ノ理由ヲ拜聽致シマス、ト  
最近ノ諸情勢ニ鑑ミマシテ紛争ハ早ク  
終了セシメ、色々事務ノ簡捷化モ圖ラ  
ナケレバナラヌト云フヤウナ御趣旨デ  
アリマシテ、其ノ點ハ御尤モト存ジマ  
ス、所ガ此ノ休止滿了ニ依リ訴訟ノ取  
下ゲ等ニ付キマシテハ、今日ニ於テハ  
之ヲ悪用スルト云フヤウナ事情ハ、モ  
ウ存在シナイノデアリナイカト思フノ  
デアリマス、寧ろ戦力増強等ノ面カラ、  
此ノ休止制度ト云フモノガ利用セラレ  
テ居ルノガ大部分デナイカト思ハレル  
ノデアリマス、古イ時代ニ於キマシテ  
ハ、或ハ此ノ事件ハ機ガ熟スレバ和解  
ガ出來ルト云フヤウナ場合ニ、此ノ休  
止制度ヲ利用致シマシテ、當事者双方  
若シクハ訴訟代理人等ニ於キマシテ、  
合意デ之ヲ利用スルト云フコトモアリ  
マシタガ、今日ニ於キマシテハ調停制度  
ガ發達シテ居リマシテハ保爭事件等ヲ  
職權デ調停ニ依ツテ留保スルコトモ出  
來マスシ、色々活用サレテ居リマス  
カラ、調停和解ト云フヤウナ狙ヒデ此  
ノ制度ヲ利用スルト云フコトモアリマ

セズ、又被告ガ如何ニ窮シタカラト云  
ツテ、一方デ之ヲ利用スルコトガ出來  
ナイノデアリマスカラ、窮シタ被告ガ  
此ノ制度ヲ悪用シヨウト致シマシテ  
モ、左様ナコトハ出來ナイノデアリマ  
ス、寧ろ當事者若シクハ訴訟代理人等  
ニ於キマシテ、公判廷ニ於テナスベキ辯  
論ハ短時間デ出來ルノデアルケレドモ、  
裁判所ガ中々自分共ノ辯論ヲ開始シテ  
吳レナイ、故ニ當事者デアルト、今日  
ハ時局ニ伴フ戦力増強等ニ是ダケノ豫  
定計畫ガアルノデアルカラ、今日ハ一  
ツ申合セノ上此ノ審理ハ後日受ケルコ  
トニシテ、其ノ方ヘ自分ノ勞務努力ヲ  
活用シヤウト云フヤウナ場合ガ、往々  
ニシテ實際存シテ居ルヤウニ思フノ  
デアリマス、世間デハ裁判所程時間ヲ厲  
行シナイ所ハナイト云フ定評ガアルト  
私ハ思フノデアリマス、併シナガラソ  
レハ決シテ人其ノモノガ怠惰ニシテ時  
間ヲ厲行セヌト云フノデアリナイ、裁判  
所ノ職務任事ソレ自體ガ、中々時間ノ  
厲行ガシナイヤウニナツテ居ル、即  
チ事實ノ認定、法律ノ適用、斯ウ云フ  
ヤウナコトニ付テハ千思萬考ヲ要ス  
ル、隨テ御承知ノ如ク宅調ト云ツテ、  
役所ニ出ヅシテ自宅ニ於テ書類ヲ調べ、  
色々研究スルコトガ公然許サレテ居ル  
ト云フヤウナ次第デアリマシテ、役所  
ニ出勤ヲシテ後モ、或ハ證人調べラ  
ルニ付テハ、先ツ以テ又記録ヲ調べル  
ト云フヤウナコトデ、九時ニ呼出シテ  
受ケテ、九時カラ開始シテ吳レト思  
ツテ待チアゲンデ居ル當事者等ニオ構  
ヒナク、ヤハリ其ノ九時ノ呼出シテ尻  
目ニシテ、十時或ハ都合ニ依リマス  
トソレガ十一時ニ開廷サレト云フコト  
ハ、是ハ事實上珍シクナイコトデア  
ル、サウ云フヤウナ場合ニ當事者ニ於

○金井委員長 委員ノ各位ニ御諮リ致  
シマスガ、政府カラ多少參考資料ガ出  
テ居リマスケレドモ、尙ホ改メテ參考  
資料ノ御要求ガアリマシタナラバ此ノ  
際承ツテ置キタイト思ヒマス——ソレ

○金井委員長 委員ノ各位ニ御諮リ致  
シマスガ、政府カラ多少參考資料ガ出  
テ居リマスケレドモ、尙ホ改メテ參考  
資料ノ御要求ガアリマシタナラバ此ノ  
際承ツテ置キタイト思ヒマス——ソレ

テハ、先程申上ゲマシタヤウニ、此ノ頃ハ一刻ヲ争フヤウナ戦力増強ノ爲ニ大キナ仕事ガアリマスルシ、又訴訟代理人デアリマスルト、自分ノ事務所ニハ、左様ナ時局ニ動カ人ガ事件ノ研究或ハ訴訟進行上ノ打合セ等テ事務所ヘ來テ待ツテ居ル、故ニ一刻モ早ク退廷ヲシテ左様ナ人ノ用ヲ濟マシ、家ニ歸シテ戦力増強ニ働カセタイ、斯ウ思フガ、中々裁判所ノ開廷ガ思フヤウニ行カナイ、或ハ開廷サレルト致シマシテモ、ソレハ、順序ガアリマスルカラ、午前中ニ濟マナイト云フヤウナ場合ニナリマスルト、ソコニ成ベク其ノ日ノ期日變更ヲシテ貴ヒタイト云フ所ノ避クベカラザル事情ガ生ジテ來ル、而モ今日ノ制度ニ於キマシテハ、御承知ノ期日變更ト云フコトハ嚴格ナ條件ガアル爲ニ、容易ニ許サレナイ、殊ニ地方ニ依リマスルト構成ガ旨ク行ツテ居ラナイ所ガアル、或ハ調停ノ爲ニ判事ガ出張シテ居ナイ、或ハ病氣ノ爲ニ缺席スルト云フヤウナ際ニ、大キナ裁判所ナラバ直キニ其ノ補充ガ出來ルケレドモ、小サイ裁判所デアリマスルト、相當離レテ居ル區裁判所カラ其ノ補充ヲ計畫シナケレバナラス、サウシマスルト又ソコニ其ノ人ガ出勤シテ來ルマデニ、相當ナ時間ヲ見ナケレバナラスト云フヤウナ都合デ、裁判所側ニ於ケル時間履行嚴守ガ出來ナイ爲ニ、當事者或ハ代理人ト致シマシテハ、隨分時間ノ空費ヲスルコトガアル、左様ナ場合ニ休止ヲ利用スルト云フコトハ惡意ナク善意デアツテ、而モ其ノ效果ハ相當事ヲテ居ルト思フノデアリマス、隨テ今日所謂敵前議會ト云フヤウナ場合ニ、特ニ休止滿了條件ヲ強化スルト云フ必要ハナイノデナイカ、或ハ此ノ前段

ニアリマスルヤウニ、口頭辯論準備手續等ノ期日ニ出頭セヌト云フヤウナ場合ニ於キマシテハ、是ハ新様ナ所謂訴訟終了ト看做スヤウナ取扱ヲスル必要ガアルカモ知レマセヌガ、其ノ後段ニアリマスルヤウニ、辯論、若シハ陳述ヲ爲サズト云フヤウナコトマデ此ノ休止滿了ノ條件ニ入レテ、之ヲ強ヒテ推進シテ行カネバナラヌト云フヤウナコトハ、今日ノ此ノ時局ヲソレハ、擔當致シテ居リマスル當事者、訴訟代理人等カラ考ヘマスルト、サマデノ必要ガナイヤウニ思ハレルノデアリマスガ、政府ノ所見ト致シマシテハ、裁判所ノ時間履行、之ニ依ツテ當事者或ハ代理人等ニ時間ヲ空費サセナイヤウナコトニ付テ何カ一ツノ御工夫デモアルト致シマスナラバ、此ノ際承リタイト思ヒマス

○齋藤(直)政府委員 只今御尋ネノ裁判所ノ時間履行ノ問題ニ付キマシテハ、舊來ヨリ常ニ御指摘ニ與リ、問題ニナツテ居ル點デゴザイマシテ、裁判所ト致シマシテモ色々ノ工夫ヲ以テ何トカ時間履行ガ出來マスヤウニ努力ハ致シテ居ルノデゴザイマスガ、殊ニ民事訴訟ニ於キマシテハ、例ヘバ證人が出頭シテ居ル場合ニ、當事者何レカノ差支ヘデ擱ハレナイト云フ時ニハ、假ニ證人ダケヲ先ニ調べマシテモ、當事者雙方ガ擱ハナイ所デ調べマシタガ爲ニ、又訊問漏レノ點ガアツテ、モウ一度其ノ證人ニ來テ實情モハナケレバナラヌト云フヤウナ事例ガ再三アリマシタノデ、裁判所ガ雙方擱ハレルノヲ待ツテ居ルト云フヤウナ實情モ大分アルヤウニ聞イテ居リマス、成ベク雙方ガ法廷ニ擱ハレルノヲ待ツテ居ル爲ニ時間ガ遅レルト云フヤウナコトモ聞イテ居

ツタリ、色々ナ事情ガアルト思ヒマスガ、裁判所ガ時間履行ノ爲ニヤツテ居リマス努力ニ付テハ、尙ホ司法行政上ノ措置ト致シマシテモ出來ルダケノコトハヤツテ參リタイト、思ツテ居リマス、本法立案ノ趣旨ハ先程提案理由デ政府側カラ申上ゲタ通りデゴザイマスガ、尙ホ裁判所方面カラモスカル趣旨ノ規定ノ必要デアルコトハ數年來要望ノアリマシタ點デアリマシテ、之ヲ具體的數字ニ付テ調べ見マシテモ、御手許ニ御配付申上ゲマシタ法案ノ參考資料中ニモ擧ゲテ置キマシタガ、昨年十月末現在デ、控訴院、地方裁判所、區裁判所ニ分ケテ、其ノ當時ノ未濟事件ニ付キマシテ、十月末マデニ繫屬シテ居ル期間ト、其ノ間ニ何回以上休止ガアツタカト云フコトヲ調べ見マス、御覽戴キマス通り相當休止ガ多イノデ、尤モ此ノ休止ノ原因ノ中ニハ只今御指摘ニナリマシタ如ク、所謂下方デ示談ガ進行中デアル、デアルカラ口頭辯論ノ進行ガアルト却ツテ其ノ示談ノ進行ヲ妨ゲルヤウナコトニナルノデ、見當ガ付クマデ、片ガ付クマデ休止ヲ反覆スルト云フ状態デ置キタイト云フヤウナモノモアリマセウ、色々事情モアリマセウガ、一面斯ウ云フコトノ豫メ分ツテ居リマス場合ニハ、特ニ戰時下期日ノ當日ニナツテカラ裁判所ヤ當事者ノ折角準備ヲシテ來タコトヲ無駄ニスル前ニ、豫メ期日變更ノ申請ト云フ方法モ民事訴訟法認メテ居ルノデアリマスカラ、成ベクソレヲ活用シテ貴ヒタイ、ソレニ依ツテ今マデ所謂休止ヲナスノガ成功デアツタト云フヤウナコトモ救ハレルノデ、今回改正規定ガ訴訟運延ノ一ツノ原因デア

ル所ノ戰時下期日防止シタイト云フ趣旨カラ出タコトニ依ツテ、著シイ不便ヲ掛ケルモノデハナイト云フヤウナ見解ヲ持ツテ居ル次第デ、ゴザイマスガ、尙ホ斯ウ云フ新シイ規定ノ運用ニ當リマシテハ、裁判所、實務家ノ會同シテ協議スル機會ナドモ度々アルノデアリマスカラ、御趣意ノ存スル所十分實務家全般ニ徹底スルヤウニ努力シタイト考ヘテ居リマス

○谷原委員 裁判所ノ色々從來苦心工夫セラレテ居リマス點ハ私共モ諒トスル所デアリマス、例ヘバ證人ノ呼出シ或ハ當事者ノ呼出シ等ニ付キマシテモ、午前午後三分ツト云フヤウナコトモ實際ヤラレテ居ルヤウデアリマスルガ、然ルニドウモ色々慎重審議ヲスル爲ニデアリマセウガ、屢、法廷ニ立ツト云フコトガ何ダカ十分慎重ニ考慮スルト云フ調ベニ惡影響ガアルヤウニ感ゼラレルノカドウカ知リマセヌガ、ドウモ屢、法廷ニ出テ行クト云フコトヲ多少ウルサガルト云フヤウナ氣分デモアルカト思ハレルノデアリマスガ、成ルベク朝早ク始メタナラバ晝飯ヲ抜キニシテモ早ク法廷ヲ片付ケテシマフ、サウシテ自分ノ擔任シテ居ル事件ヲ慎重ニ考慮シヨウ、斯ウ云フ氣分ガ働クヤニ見エマシテ、一時ハ午前午後二分ケテ證人、當事者ヲ呼出スト云フヤウナコトモ行ハレマシタガ、間モナクサウ云フヤウナコトハ止メテシマツテ、先程申上ゲル如ク一氣呵成ニ法廷ヲ濟マサウト云フヤウナ點ガ見エルノデアリマス、サウナリマスルト結局訴訟代理人等ニ於キマシテハ、先程申上ゲマシタヤウナ理由デ休止ト云フヤウナコトヲ使ヒタイト云フ關係ガ出來テ來ルノデアリマス、殊ニ期日ノ變更ト云フコトガ相當嚴格ナ條件デ容易ニ許サレヌト云フコトニナリマスルト云フト、甚ダ窮屈ナ場面ガ生ジマスノデ、假ニ本案ガ成立致シマシテ運用サレルト云フヤウナ場合ニ於キマシテハ、此ノ期日ノ變更等ニ付キマシテ從來ヨリモヨリ以上緩和サレタ取扱ヒヲサレルカ、或ハ又時間履行等ニ付キマシテ從來ヨリモヨリ以上工夫考慮ヲ要スル必要ガアルカト思フノデアリマス、斯ウ云フ點ハ政府ニ於キマシテ十分考慮ヲシテ貴ハナケレバナラヌト思フノデアリマス、司法官ハ御承知ノ如ク獨立ノ地位ヲ保障サレテ居リマスケレドモ、政府殊ニ司法大臣等ニ於キマシテ何カソコニ示唆訓示等ノ如キモノデモアリマスルト云フト、ソレヲ直チニ金科玉條タル常識トシテ自分ニ取入レマシテ、サウシテソレニ基キテ自分ノ職務ヲ推進運用シテ行カウト云フ風ガ甚ダヒドイノデアリマス、例ヘバ何カ茲ニ法律ガ改正サレ、其ノ課罰規定ガ長期多額ニ於テ増加サレルト云フヤウナコトニナリマス、是ハ餘程重罰刑ヲ以テ臨マナケレバナラヌノダト云フヤウナコトヲ自分ノ常識トシテ取入レマシテ、サウシテ俄カニ法ノ豫期以上ニ重ク其ノ刑罰規定ヲ運用スルト云フヤウナ弊ガ我々地方ニ於テ屢、見受ケラレルノデアリマス、要スルニ獨立ノ地位トハ云ヒナガラモ司法大臣等ノ示唆訓示等ガアリマス、其ノ方ニ引摺ラレルヤノ觀モアリマスノデ、斯様ナ點ニ付テハ十分ニ御注意ヲ願ヒタイト思フノデアリマス、尙ホ此ノ人的資源ノ活用問題ニ付キマシテ、政府當局ニ御伺ヒ致シタイト思フノデアリマス、無論司法ノ分野ニ於キマシテモ此ノ點ニ於テハ多大ノ御留意ノアルコトヲ思ハレルノデアリマスガ、然ルニ實際ノ事情

ヲ見マスルト被疑者ノ拘束ト申シマス  
ルカ、無論ハ正規ノ手續デヤツテ居  
ルノデハアリマセヌガ、近時ハドウ云  
フ名目デヤツテ居リマスルカ、留置場  
ニ入レマシテ、其ノ被疑者ヲ司法警察  
官ガ長イ間拘束ノ儘取調ベルト云フヤ  
ウナコトガ頗ル多イノデアリマス、固  
ヨリ戰爭ノ段階ガ進ンデ參ルニ從ヒマ  
シテ治安ノ維持確保ト云フコトニ益  
重點ガ加ツテ來ルコトダラウト思ヒマ  
スカラシテ、犯罪捜査ニ當リマシテ周  
密ナル措置ヲ講ズルト云フコトハ是ハ當  
然ノコトデアラウト思ヒマス、併シナ  
ガラ一方又戰爭ノ長期化、戰爭地域ノ  
擴大、之ニ伴ヒマシテ人的資源ヲ出來  
ルダケ多ク活用シナケレバナラヌト云  
フコトモ國家トシテ當然ノ要求デア  
ルト思フノデアリマス、隨テ今日ノ如  
ク、警察デ百日ヤ八十日拘束サレルコ  
トハ珍ラシクナイト云フ實情ハ、是ハ  
戰爭ニ勝抜ク國家態勢ノ上カラ申シマ  
シテ、決シテ好マシキコトデナイト思  
フノデアリマス、又如何ニ此ノ捜査ニ  
手間ヲ掛ケナケレバナラヌト云ヒマシ  
テモ、眞劍ニ檢察官司法警察官ヲ有  
效ニ適切ニ指揮指導致シマシテ、其ノ能率  
ヲ上ゲサスト云フコトニナリマシタ  
ラバ、今日ノヤウニ被疑者ヲ長ク留置  
場ニ入レテ置カナクテモ、相當ノ期間  
ニ犯罪ノアルヤ否ヤ或ハ之ニ伴フ證據  
ノ取集メト云フコトハ出來ルデアラウ  
ト思フノデアリマス、今日ハ司法省方  
面(所謂犯罪捜査上ノ成績等)ニ付テ、  
表面的ニ現ハレテ來ルモノハ、サウ事  
件捜査ニ長イ手間ヲ掛ツテ居ナイヤウ  
ニナツテ居ルダラウト思ヒマスケレド  
モ、併シナガラソレガ表面的ニ現ハレ  
テ來ルマデニハ非常ニ長イ間關係者ガ  
迷惑ヲシ、且ツ生産ニ從事スルコトガ

出來ナイヤウナ實體ニナツテ居ルノデ  
アリマシテ、是ハ此ノ際一大改革ヲセ  
ナケレバナラヌト思フノデアリマス、是  
等ニ付キマシテ司法當局トシテハ如何  
ナル御考ヘテ持ツテイラツシヤルノデ  
アリマスルカ、一應何ツテ置キタイト  
思フノデアリマス  
○船津政府委員 御答へ致シマス、裁  
判檢察ニ於キマシテ、處理ガ適正デア  
ルコトハ固ヨリ、敏速ヲ貫ブコトハ正  
ニ只今谷原委員ノ仰セノ通りデアリマ  
シテ、我々司法當局トシマシテモ、御  
趣旨ノ點ニ付キマシテハ平素カテ十分  
心掛ケマシテ、其ノ適正ヲ得ルヤウニ  
努メテ居ル積リデアリマス、殊ニ此ノ  
決戦ニ於キマシテ、寸秒ヲ爭ツテソ  
レゾレ各自ガ職域ニ奉公ヲ致サナケレ  
バナラヌ際ニ於キマシテハ、特ニ御承  
知ノ通り取調ベノ敏速ガ要請セラレテ  
居ルノデアリマシテ、當局ト致シマシ  
テモ、凡ニル機會ヲ擲ヘマシテ、其ノ  
趣旨ガ徹底スルヤウニ努メテ居ル次第  
デアリマス、例(ハ此ノ東京都下ニ於  
キマシテハ、現内閣ニナリマシタ後ノ  
處置デゴザイマスガ、檢察局モ能ク其  
ノ趣旨ヲ警視廳ニ徹底サセマシテ、現  
在特ニ經濟事犯ノ取調ベノ如キハ、得  
テシテ期間ガ長引ク虞ガアリマス、  
是等ニ付キマシテモ嚴重ナ制約ノ  
下ニ一日モ早ク取調ベガ完了スルヤウ  
ニ致シテ居ルヤウナ次第デゴザイマ  
ス、御趣旨ノ點ハ洵ニ御尤モニ拜聽致  
シタノデアリマスガ、今後ニ於キマシ  
テモ尙ホ一層徹底サシテ、職局ノ要請  
ニ適フヤウニ極力努メテ行ク所存デ  
ゴザイマス  
○谷原委員 今一ツ御尋ネ致シタイノ  
ノハ、保釋ノ問題デアリマスガ、是ハ  
政府ト致シマシテモ、表向キノ答辯ト

致シマシテハ、恐ラク刑事訴訟法ニ所  
定ノ事由ガアルナラバ、私ハ保釋ヲ許  
シテ當然ト御答へニナルダラウト思  
ヒマスガ、併シナガラ實際ヲ見マスル  
ト、刑事訴訟法所定ノ條件ヲ具備スル  
場合ニ於キマシテモ中々許サナイノデ  
アリマシテ、而モ許サナイ狙ヒハ、事  
件ヲ速カニ終了セシメタイ、斯ウ云フ  
ヤウナ考ヘカラ、特ニ此ノ保釋ト云フ  
コトヲ出シ惜ミスルヤウデアリマス、  
併シナガラ今日ニ審制度トナリマシ  
テ、ドウモ被告ハ身カラ出タ錯デアリ  
マシテモ、所謂直チニ心服致シ難イ關  
係デ上訴判決ヲ受ケタイ、是ハモウ  
如何ニ犯罪人デアリマシテモ、人トシ  
テ人情當然ノコトデアラウト思ヒマス  
ガ、サウ致シマス、結局上告審ノ判  
決ヲ受ケルマデノ間、唯徒ラニ監房ノ  
中デ其ノ月日ヲ待タナケレバナラヌ、  
是レ程人手ノ要ル折柄、マルデソレ等  
ノ人ハ別世界ニ住マナケレバナラヌト  
云フヤウナコトニナルノデアリマス、  
固ヨリ證據湮滅、逃亡等ノ虞ノアリマ  
スモノニ付キマシテハ、身柄ヲ拘束シ  
テ置カナケレバナラヌト云フコトハ當  
然デアリマスガ、客觀的ニ左様ナ事實  
ノ存セナイ場合ニ於キマシテモ、唯此  
ノ事件ヲ一日モ速カニ終了セシメタ  
イ、言ヒ換ヘマスルト云フト、上告ノ  
取下げデモシテ早ク服罪シテ貰ヒタイ  
ト云フヤウナ狙ヒカラ、左様ニ無駄ニ  
暮ラサスト云フ實際ノ弊害ガ存スル  
ノト思ハレルノデアリマス、デアリ  
マスカラ、私共ハ證據湮滅、逃亡等ノ  
虞ノナイヤウナモノニ付キマシテハ、  
保釋ヲ出シ惜ミセズニ許シマスルト共  
ニ、尙ホ又之ニ一個ノ條件ヲ付ケマシ  
テ、サウシテ法的ナモノデナクモ結  
構デアリマスガ、何處カ適當ナ場所デ

勤勞ニ服セシメル、サウシテ此ノ戦力  
増強ニ役立タシメルト云フヤウナ一ツ  
ノ法案ヲ立テマシテ、サウシテ此ノ保  
釋ト云フコトヲモウ少シ間口廣ク運用  
スルト云フヤウナコトニスルコトガ、  
今日ノ諸般ノ情勢カラ考ヘマシテ適當  
ナ措置デナカラウカト思フノデアリマ  
スルガ、之ニ對スル政府ノ所見ヲ承リ  
タイノデアリマス  
○船津政府委員 只今仰セノ保釋ヲモ  
ツト數多ク許サレテ然ルベキデナイカ  
ト云フ問題ニ付キマシテハ、議會毎ニ度  
度意見ノ交換ガ行ハレテ來テ居ルノデ  
ゴザイマスガ、是ハ先程仰セノ、取調ベ  
ノ敏速ノ問題トモ一面關聯シテ居ルヤ  
ウニ考ヘテ居リマス、現在マデノ實情  
ヲ以テシマスレバ、裁判所ガ保釋ノ條  
件ニ適ツテ居ルコトヲ認定ノ下ニ保釋  
ヲ致シマス、色々ナ事情ヲ轉ヘマシ  
テ中々取調ベガ進捗シナイ、中ニハ裁  
判官ノ見込違ヒデ、所在ヲ晦マサヤウ  
ナ者モ必ズシモ少クナイト云フヤウナ  
實情デアアルノデアリマス、ソレ等ノ點  
モアリマシテ、或ハ在野法曹ノ側カラ  
御覽ニナリマス、十分ノ期待ニ副ヒ  
兼テ居ルヤウナ實情デアラウカト思  
フノデアリマスガ、是等ノ問題ハ、度  
度議會デ同ジヤウナ弱弱問答スルコ  
トハ餘リ意味ノナイコトダラウト考ヘ  
ルノデアリマス、斯様ナ職局ノ際デモ  
アリマスカラ、在野議會ニ於カレマシ  
テモ、今後ハ裁判所ガ保釋ヲ致シタヤ  
ウナ場合ニ於テ絕對ニ正當ト認メニク  
イヤウナ事情デ訴訟ヲ延バシタリ、或  
ハ所在ヲ晦マサヤウナコトノナイヤウ  
ニ、裁判ノ公正、裁判ノ進捗ノ上ニ此  
ノ上トモ十分御協力、御支援ヲ得タイ  
ヤウニ、私ハ衷心希望スルノデアリマ  
ス、左様ニシテ在朝在野本當ニ相協力

シテ行キマスナラバ、此ノ戦局下ニサ  
ウ云ツタ無駄モ出來ルダケ減リマシ  
テ、サウシテ時局ノ要請ニ應ヘルコト  
ガ出來ルダラウ、斯様ニ考ヘテ居ル次  
第デゴザイマス  
○谷原委員 所謂重罪ノ刑ニ當ルヤウ  
ナモノデアリマス、保釋ノ機會ニ逃  
亡スルト云フヤウナコトモアリマセウ  
ガ、然ラザル場合ニ於キマシテ逃亡  
致シマシテ今日其ノ目的ガ達セラレ  
譯ノモノデモナシ、結局ニ左様ニ致シ  
マスナラバ自ラ危地ニ入ルト云フヤウ  
ナコトニナリマスルノデ、左様ナ愚ナ  
モノハアリマセヌ、又裁判官モ檢察モ  
公然言ハレル譯デハアリマセヌガ、其  
ノ心中ヲ推察シテ見ルナラバ、結局刑  
事訴訟法所定ノ事項ニハ該當シナイ、  
言換ヘルト、證據湮滅、逃亡等ノ虞ノ  
ナイト云フ場合デモ、唯事件ヲ早ク濟  
マセタイト云フヤウナコトデ許サナイ  
ヤウナ實際ノ弊害ガ甚多イヤウデア  
リマス、事件ヲ早ク濟マスト云フコト  
モ戰爭ニ勝ツ一ツノ理由、方法デアリ  
マセウ、併シナガラ人的資源ノ弊害ガ  
ナイ限リ活カシテ行クト云フコトモ、  
是ハ戰爭ニ勝ツ有力ナ手段デアリマス  
カラ、此ノ點ニ付キマシテハ十分ニ御  
考慮ガ願ヒタイト思フノデアリマス  
更ニモウ一ツ附加ヘテ此ノ際何ツテ  
置キタイノハ、此ノ刑事、民事ノ訴訟  
促進、左様ナモノヲ早ク片付ケル、事  
務的ニ見レバ洵ニソレハ結構ナコトデ  
アリマス、併シナガラ司法ノ一大使命  
カラ申シマスルト云フト、如何ニ戰爭  
中デアアルカラト云ツテ、唯徒ラニ即決  
ガ宜シイ、所謂巧遅ヨリハ拙速ガ宜シ  
イト云フベキモノデナイト思フノデア  
リマス、所ガ既ニ三審制度ガ二審制度  
ニナツテ居ルノデアリマシテ、我々ハ

ソレヲ今更元ニ還セト云フヤウナ愚カ  
ナ主張ヲスルモノデアリマセヌガ、  
併シ此ノ二審制度ハ二審制度トシテ存  
置シツ、モ、之ヲ成ベク司法ノ本質  
カラ考ヘマシテ、有效適切ニ運用ノ出  
來ルヤウナ工夫ヲシ、ソレニ依ツテ裁  
判ニ心服セシメ、司法ノ威信ヲ高メテ  
行クト云フ考慮ヲ出來ルダケ致シタイ  
ト思フノデアリマスガ、ソレニ付テハ  
此ノ刑事事件等ニ付キマシテ、マア上  
告ノ理由ト致シマシテハ、當ニ法律違  
反ノミニ限ラズ、刑ノ量定ガ著シク不  
當デアルトカ、或ハ事實ノ誤認ヲ疑フ  
ベキ顯著ナ理由ガアルトカ云フヤウナ  
場合ニハ、上告ノ理由トモナルノデア  
リマスガ、併シナガラ是等ノ條文  
ハ、殆ド歴史的ニ見マシテモ、例外的  
ニ出來テ居ル條文デアリ、非常ニ嚴格  
ナ運用ガ要望セラレル結果ト致シマシ  
テ、一審デ有罪ノ判決ヲ受ケ、上告等  
ヲ致シマスル場合ニ、其ノ上告趣意書  
ニ認メマスルコトハ、素人デハ、容易ニ  
自分ノ思フコトヲ認メルコトガ出來ナ  
イヤウナ人モアリマスルシ、又只今述  
ベマシタ二ツノ點ニ付キマシテモ、其  
ノ條件ガ甚ダ嚴格デアリマスル爲ニ、  
中々容易ニ破毀ヲ受ケルヤウナコト  
ガ、望マレナイノデアリマス、隨テ今  
日既ニ二審制度トナツテ居ルノデアリ  
マスルカラ、上告審ニ於ケル上告審理  
ノ理由ヲモウ少シ緩和ヲシテ、今二ツ  
ノ點デモ宜シイガ、此ノ二ツノ點ニ付  
テ、モウ少シ審理條件ヲ緩和致シマシ  
テ、サウシテ原審ノ裁判ヲ是正スルト  
云フヤウナ途ヲ開イテ置イタナラバ、  
ソレハ二審制度ニ對スル關係者ノ心服  
ノ度ガ強マリ、又司法ノ威信ヲ昂揚ス  
ルコトモ出來易イト思フノデアリマス  
ルガ、是等ニ對スル司法當局ノ御所見

ハ如何デアリマスカ  
○船津政府委員 御指摘ノ刑事上告ノ  
問題デゴザイマスガ、是レ亦仰セノ通  
リニ裁判ト云フモノハ絕對ニ拙速デア  
ツテハナラナイモノデゴザイマス、千  
一ツモ誤判ガアルヤウナコトハ、絶  
對ニアツテナラナイヤウニ私共司法當  
局トシテハ考ヘテ居ルノデゴザイマ  
ス、隨ヒマシテ刑事裁判ガ二審制ヲ採  
用スルヤウニナリマシテカラト云フモ  
ノハ、特ニ一審裁判ノ方ニ練達堪能ナ  
裁判官ヲ廻シマシテ、敏速ニ且ツ適正  
ニ裁判ヲ致スヤウニ心掛ケテ居ルノ  
デゴザイマス、一審ニ於テ裁判ヲ出來  
ルダケ速カニ而モ實體ノ眞實ヲ促ヘマ  
シテ、之ニ對シテ有罪ナリ無罪ナリ、  
又有罪ノ場合ニハ諸般ノ點ヲ考慮致シ  
マシテ、最モ妥當ナ刑ヲ盛ルヤウニシ  
テ行クト云フコトガ、是ガ先決問題デ  
ゴザイマシテ、一審ノ裁判ガドウモ十  
分盡ス所ガナイ爲ニ、之ヲ上訴審ニ於  
テ救済スルト云フコトハ、刑事裁判ノ  
行キ方ト致シマシテ、是ハ第一義的ニ  
考慮スベキ方法デハナイコト考ヘテ  
居リマス、併シナガラ人間ノスル裁判  
ノコトデゴザイマスカラ、又人ニ依リ  
マシテハソレノ意見ノ立テ方モ違ヒ  
得ルト云フコトハ想像サレルコトデゴ  
ザイマスカラ、之ニ上訴ノ起ルコトハ  
已ムヲ得ナイコト考ヘマスガ、併シ  
只今當局ト致シマシテハ、上告ノ條件  
ニ付テ之ヲモット緩和スルト云フコト  
ニ付テハ、マダ考慮ハ致シテ居ラナイ  
ノデゴザイマス  
○谷原委員 質問ハ終リマシタ  
○金井委員長 ソレデハ本日ハ此ノ程  
度デ終ルコトニ致シマシテ、次會ハ  
明日午前十時開クコトニ致シマス、  
今日ハ是ニテ散會致シマス  
午前十一時四十七分散會